

図書館総合展 多文化サービスについて 事前に寄せられた意見の全文 10件

<ある図書館の方から>

多文化サービスの部署はありません。障がい者サービスや児童サービスの一部などを担当しております。ただ、今月9日から、日本語を母語としない方々にも見ていただけるように、様々な国の絵本を展示する企画をします。今回は準備期間も短く、市の国際交流センターなどにお知らせできないので、普段から利用していない方には知られずに終わってしまうと思います。懇談会の配信を拝見したら、来年度に向けて、より良い図書館サービスに繋がれる可能性があると思いました。

<BABELO>

広告会社での経験と英国での移民学を専門に学んだ経験を生かし、東京で異文化コミュニケーションの領域で仕事をしております。英国で幼児と生活したことがきっかけとなり、その土地の言語以外の言葉に触れる機会を子供たちにどのように残せるか？について日々考えています。特に、日本という地域柄、日本語の力が強い感覚を持っており、どのようにしたら多言語の環境を子供達のために残していけるかを日々考えており、実践してきた方のお知恵を拝借したくこの場に申し込んだ次第です。

【Question-1】・ボランティアあるいは公的なサービスではなく、私立（事業性のある）多言語図書館を考案し試みた方はいらっしゃるか？もしなければ、どうしてなかったのかを伺いたいです。もしあれば、その方の経験談を伺えたら嬉しいです。

【Question-2】数々の実践の場を積んできた方々がお話しされる場であると認識しています。この数年で、多言語環境についての日本（特に東京）のコンディションは、どのように変わってきているのでしょうか？ポジティブな側面、ネガティブな側面の両面から、実践者のみなさまの実感値を聞ければ嬉しく存じます。

<多言語よみきかせに参加した方から>

・多言語読み聞かせは、日本では言語的マジョリティに属する自分が、多様な文化的背景を持った方々と共に暮らしていることを実感させていただける大切な時間です。

お話を聞いたり、さまざまな言語の美しい響きを味わったりするのは楽しいことです。しかしそれ以上に、異なる言語を話す人たちが協同して成り立っている会だという点に魅力を感じています。

もし自分が海外で暮らしていたら、と考えると、母国語を話す自分が歓迎され、母国語を使って楽しみを提供できる場があるのはとても嬉しいことではないかと想像します。

参加者全員が本来の自分を認められ、活かせる場として、この事業が広がり、長くあり続けることを願っています。

・困っている人の立場を想う心が働けば、今すぐ出来る取り組みはあります。簡単な指差しシートのようなものから始めることもできます。とくに公共図書館には、「専門員がない」、「予算がつかない」を理由にせず、積極的に多文化サービスに取り組んでいただきたいです。多文化サービスを発信することで、日本人の利用者が、身近に暮らすさまざまな文化的背景を持つ人たちの存在に気づききっかけにもなるのではないのでしょうか。私自身も、自分の立場から出来ることを探してまいります。この度は貴重な学びの機会をありがとうございます。

＜大阪府小学校教員＞

学校の図書館にも多文化サービスが必要。そのためにも学校専任司書の全校配置、図書の廃棄と整備、基準を満たす蔵書数を確保すること。そのうえで、英語だけでなくその学校に在籍している子どもの母語でかかれた図書を購入すること。公共図書館から学校図書館への団体貸出をスムーズにするため、図書運搬サービスが必要。市内を走る文書郵便を活用し、貸出返却の図書を公共図書館と学校との間で運用できるようにする。とにかく専任学校司書を置くことが、急務である。タブレットによる電子図書だけに頼るには、子どもの成長に弊害が起こるのではと危惧している。

＜市立図書館の方から＞

当市在住する 800 名近くの外国人に向けて、「にほんご教室（おとなの部）」を年に 30 回実施。

各地に点在する外国人居住者と市民との交流を進めるために②「にほんごカフェ」を月に 1 回のペースで開催地を変更しながら実施。

在住外国人への情報支援のために Facebook 上に③「キクロスやさしいにほんごニュース」のアカウントを作り週 2 回のペースで更新中。

④市職員、教職員を中心に日本人向けの「やさしい日本語」に関する研修会や講演会を実施。

⑤多言語、情報支援のため⑤「多言語支援ボランティア登録」を進め、現在 10 言語以上の方が登録。

次に多文化共生イベントとして「世界を知ろう！」と題するイベントを JICA 九州と共催して年に 3 回実施。

図書館で行う「多文化サービス」で、地域日本語教育や多文化共生イベントをどこまで主催して取り組むべきか悩んでいる。市役所の担当課や地域の国際交流協会と連携協働して実施していこうと努力しているが、なかなか連携がうまく進まない。

＜日本語教室の方から＞

学校図書館や図書館において、多言語絵本が普及してほしい。

教職員や図書館職員に母語の大切さの理解が普及してほしい

＜日本語学習支援の方から＞

地域に住む全ての人たちに開かれた図書館、又利用しやすい図書館になるよう行政に頼るだけではなく、利用者側も協働していく必要があると思います。

＜JSL 教室の方から＞

多読の進め方が知りたいです。よろしくお願いします。

＜留学生支援の方から＞

多文化に関心があります。

[当日、参加予定の方からのコメント]

＜NPO 法人 おおさかこども多文化センター＞

大阪で、多言語の絵本などを使った多文化理解教育を含む活動を行っている NPO おおさかこども多文化センターです。毎年、大阪市立中央図書館の大ホールを借り切って 2 日間『多文化にふれる えほんのひろば』を開催してきました。ここ 2 年は、コロナ禍で集客を必要とする『えほんのひろば』はできていませんが・

そのイベントで、高校に学ぶ外国にルーツのある生徒に参加をしてもらい、多言語で絵本を読み聞かせをしてもらったり、生徒の母語である言語の文字を使った名刺作りの活動に参加してもらっていました。

そのことがきっかけで、外国にルーツのある生徒がたくさん在籍している高校で、絵本を多言語に翻訳をしたり、また、外国語の絵本を近くの保育園や小学校で読み聞かせの活動に取り組んでいる学校があります。私たちの NPO は、そのような多言語の絵本を利用した活動を始める学校を支援する準備をしています。自分の母語で、母国のお話を読む高校生は、自分の母語、母文化に誇りを持ち、それが自尊感情につながっていているようです。また、多言語で絵本の読み聞かせを聞く子どもは、世界には、いろんな言葉と文化、お話があることを絵本を通じて知ることができ、お互いがウィンウィンの関係で豊かな多文化共生社会の実現に広がっていくことと思います。孤立しがちな来日した子どもに主役になれる機会を提供することは、子どもの自尊感情を高め、それぞれのアイデンティティに自信をもつきっかけになると考えています。